

「FXクラウドシリーズ」

仕訳帳(Excel)の読込マニュアル

第5版



2025 年 6 月 20 日版

目 次

I	機能概要	1
1.	「仕訳データ」の作成について	1
2.	「仕訳データ」の読込について	1
II	操作説明	2
1.	読込みのための仕訳抽出	2
2.	仕訳ファイルの読込処理	3
3.	仕訳の問合せ	5
III	インポートする「仕訳データ」ファイル	6
1.	ファイルの形式	6
2.	ファイル名	6
3.	仕訳データのファイルレイアウト	6
IV	インポートする「仕訳データ」各項目の詳細	9
1.	「仕訳データ」	9
V	エラーメッセージ	18
VI	警告メッセージ	20
VII	「仕訳データ」読込 Q&A	21
1.	ファイル形式	21
2.	「仕訳データ」の読み込み	21
3.	「仕訳データ」の各項目	21
4.	テスト	22
5.	運用・操作	22

I 機能概要

F Xクラウドシリーズの「仕訳帳(Excel)の読込」メニューから Excel に切り出したデータを基に「仕訳データ」を作成し、「仕訳帳(Excel)の読込」メニューで読み込むことにより、仕訳入力の業務効率向上を図ります。

1. 「仕訳データ」の作成について

- (1) 「仕訳データ」は、F Xクラウドシリーズが定めるレイアウトに従って作成されているものとします。「仕訳データ」のレイアウトの詳細については、「Ⅲ インポートする「仕訳データ」ファイル」「Ⅳ インポートする「仕訳データ」各項目の詳細」を参照してください。
- (2) 「仕訳データ」については、F Xクラウドシリーズへの読み込み時にその内容を補正できません。そのため、あらかじめF Xクラウドシリーズのマスター設定（勘定科目情報、消費税情報、部門別管理、資金管理等）に従って作成されている必要があります。

2. 「仕訳データ」の読込について

- (1) 作成した「仕訳データ」のファイルは、F Xクラウドシリーズでの読み込み時、任意のフォルダに格納されているものとし、そのファイル名を指定することより読み込みを開始します。
- (2) F Xクラウドシリーズでの読み込み時のチェックにより、「仕訳データ」とF Xクラウドシリーズのマスターで不整合が発生した場合は、画面上にその旨のメッセージを表示し、「仕訳データ」の全明細の読み込みを中止します。この場合には、メッセージに従って「仕訳データ」の内容を見直す必要があります。
- (3) 「仕訳データ」を読み込んだ後、これらの仕訳を「仕訳帳(Excel)」として検索・絞込みが可能です。
- (4) F Xクラウドシリーズでは、読込んだ仕訳は「複合仕訳形式」で表示します。

II 操作説明

1. 読込みのための仕訳抽出

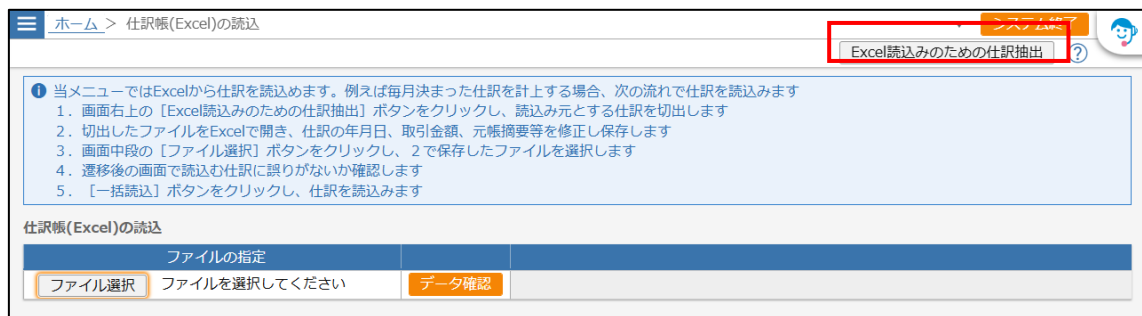
(1) 仕訳抽出画面の起動

ホーム>仕訳データの読込>仕訳帳(Excel)の読込をクリックします。



(2) 仕訳の抽出と Excel 切出し

①画面右上の「Excel 読込みのための仕訳抽出」ボタンをクリックします。



②画面上部の「詳細検索」で条件を指定し、切出す仕訳を抽出します。

③画面右下の「Excel 切出」をクリックし、ファイルをダウンロードします。



(3) データの編集

ダウンロードしたファイルを Excel で開き、月日、元帳摘要等、必要な項目を修正して保存します。

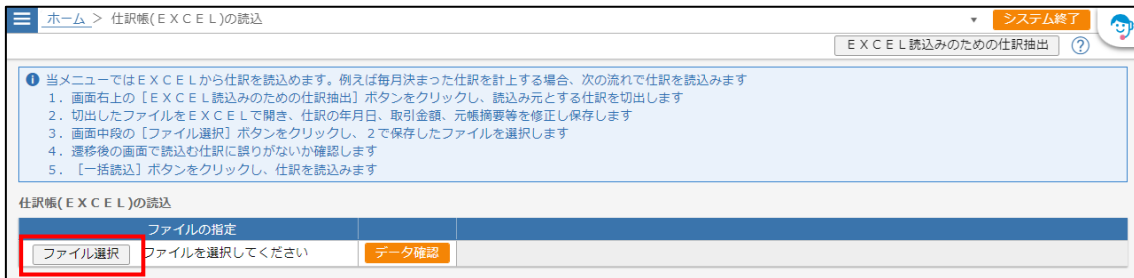
2. 仕訳ファイルの読込処理

(1) メニューの起動とファイル読込

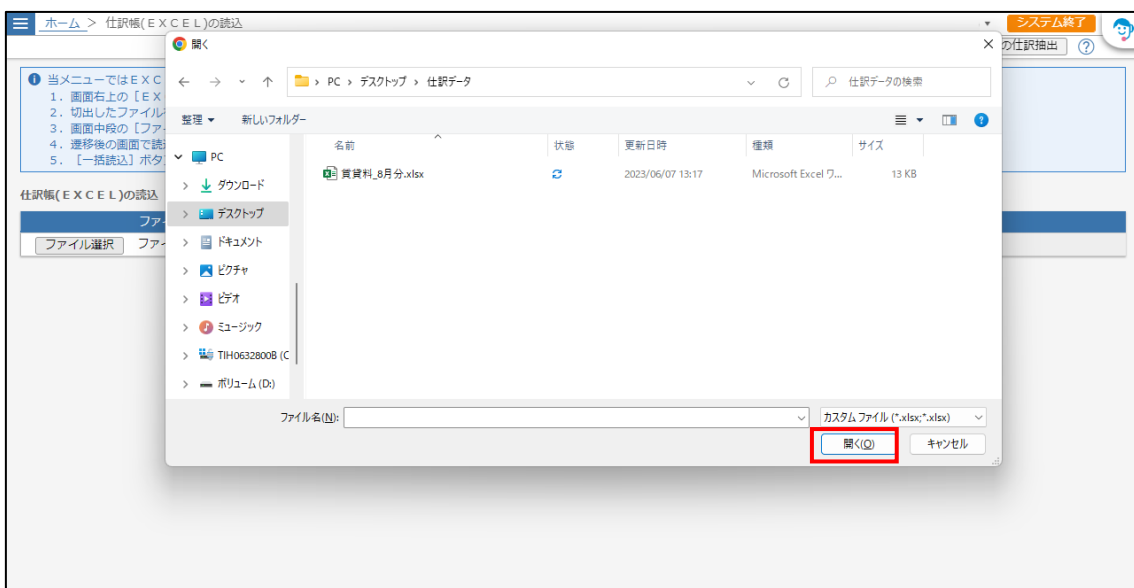
①ホーム>仕訳データの読込>仕訳帳(Excel)の読込をクリックします。



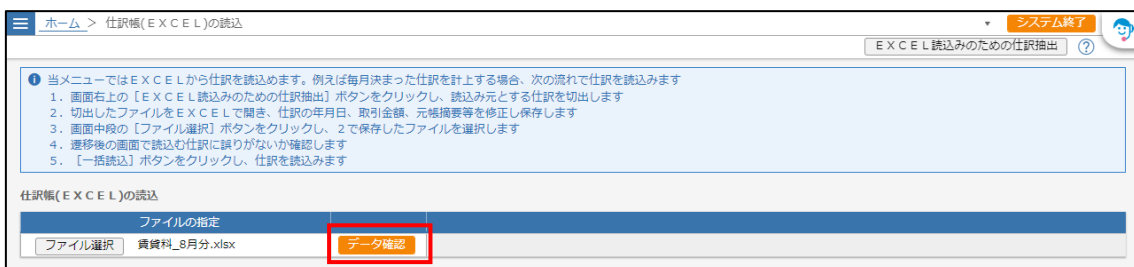
②「仕訳帳(Excel)の読込」の[ファイル選択]ボタンをクリックします。



③仕訳データのファイルを指定するウィンドウが表示されます。ファイル名を指定し、[開く]ボタンをクリックします。



④選択したファイル名を確認して[データ確認]ボタンをクリックします。



(2) ファイルのチェック

読み込んだファイルをチェックし、読み込めない場合はエラーメッセージが表示されます。エラーがある場合は読み込めません。

ホーム

>

仕訳帳(Excel)の読込

>

整合性チェック結果

システム終了

✖ 不整合な仕訳があるため読込めません。エラーとなっている仕訳を確認してください

行番号	チェック結果
2	補助コードが入力されていないか、誤った補助コードが入力されています
4	部門コードが入力されていないか、誤った部門コードが入力されています

(3) 仕訳の確認・一括読込

読み込んだ仕訳は複合仕訳形式で表示されます。内容を確認し、[一括読込] ボタンをクリックします。

ホーム > 仕訳帳(EXCEL)の読込 > 計上対象仕訳一覧

システム終了

一括読込

① [一括読込]ボタンで仕訳を読み込んでください

1000件/頁

月日	伝票番号 証憑番号	借方				貸方				取引先名 元帳摘要	実際の 仕入れ年月日	収支区分
		勘定科目名 口座名	部門	税区 税率	取引金額 (内、消費税等)	勘定科目名 口座名	部門	税区 税率	取引金額 (内、消費税等)			
08/31	638	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	東京食品 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07
08/31	639	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	高崎物産㈱ 宇都宮支店 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07
08/31	640	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	高崎物産㈱ 佐野支店 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07
08/31	641	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	㈱ヤオスーパ 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07
08/31	642	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	朝霞食品 (株) 志木支店 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07
08/31	643	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	朝霞食品 (株) 熊谷支店 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07
08/31	644	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	東九商事 (株) 本社 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07
08/31	645	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	(株) 鹿沼塗装 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07
08/31	646	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	㈱屋食品 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07
08/31	647	普通預金 明治銀行	上野	0	6,600	貸賃料	共通部門	1 10%A	6,600 (600)	(株) ニクマル 駐車場賃賃料 9月分		01 経常収入 07

3. 仕訳の問合せ

- (1) 「仕訳帳」メニュー等の問合せ画面上部にある「詳細検索」ボタンをクリックすると、当画面が表示されます。「仕訳の種類」で「仕訳帳(Excel)」を選択し、[検索] ボタンをクリックします。

- (2) 一覧画面に表示されます。詳細を確認したい仕訳をダブルクリックすると、画面が表示されます。画面下に仕訳の種類名「仕訳帳(Excel)」が表示されます。また、画面上部の「Excel 出力」ボタンから読み込んだ Excel ファイルをダウンロードできます。

行	借方				貸方				実際の仕入れ年月日	
	勘定科目 勘定科目名 口座名	部門	税 業 税率	取引金額 (内、消費税等) 税抜き金額	勘定科目 勘定科目名 口座名	部門	税 業 税率	取引金額 (内、消費税等) 税抜き金額	取引先名(仕入先の氏名又は名称) 元帳摘要(仕入れ資産等の総称)	
1	1113A1 普通預金 明治銀行 上野		0	6,600	4113 賃賃料	000 共通部門	1 10%A	6,600 600 6,000	000001 東京食品 駐車場賃賃料 8月分	~
2										~
3										~
4										~
	借方合計 (内、消費税等)			6,600	貸方合計 (内、消費税等)			6,600 600	差額	0
								収支区分	01 経常収入	07

Ⅲ インポートする「仕訳データ」ファイル

1. ファイルの形式

Excel ファイルとします。

2. ファイル名

任意に設定可能です。

3. 仕訳データのファイルレイアウト

「必須」項目は必ず値をセットしてください。

「省略値」とは、省略時にセットする値です。

「省略時更新値」とは、省略した場合にデータとして扱われる値です。

(※)「未入力」とは、空文字(「」)を指します。

No	列	項目	型	有効値・桁数	必須	省略値	省略時更新値	備 考
1	A	月日	日付	西暦年月日(8桁)	必須	-	-	YYYY/MM/DD の形式でセットします。
2	B	伝票番号	数値	0~99999	必須	-	-	システムで自動付番(変更不可) またはユーザごとに自動付番(変更不可)の場合は更新時に自動付番
3	C	証憑番号	文字	半角6文字以内		未入力	空文字	「利用機能範囲」で数値入力として いる場合で文字列が入力されている 場合、または半角6文字を超えて いる場合はエラー
4	D	借方科目コード	文字	半角数字4文字 (1111~9992)		-	-	貸方科目コードが空欄の場合は必須
5	E	借方科目名	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視
6	F	借方補助コード	文字	半角2文字		未入力	空文字	借方科目を口座別管理している場合は必須
7	G	借方口座名	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視
8	H	借方部門コード	文字	半角数字3文字 (000~998)		未入力	空文字	部門管理機能を利用しており、借方 科目コードが経常損益までの損益 科目の場合は必須。それ以外の時は 無視
9	I	借方部門名	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視
10	J	借方課税区分	文字	半角2文字以内		未入力	空文字	申告書を自動作成する場合は必須
11	K	借方事業区分	文字	半角数字1文字 (1~6)		未入力	空文字	消費税情報で「事業区分を入力する」 (簡易課税)場合でかつ当該仕 訳の課税区分が[1]、[11]の場合は 必須
12	L	借方消費税額 自動計算か否か	数値	0or1		未入力	0	「0」:消費税率の横にAが付きません。 「1」:消費税率の横にAが付きます。
13	M	借方軽減税率か 否か	数値	0or1		未入力	0	軽減税率の場合は「1」、軽減税率以外 の場合は「0」をセットします。 省略された場合は、軽減税率以外と みなして読みます。
14	N	借方税率	数値	0~99		未入力	空文字	申告書を自動作成するかつ借方が 課税取引の場合は必須
15	O	借方控除割合	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視

16	P	借方取引金額	数値	-9999999999 ~9999999999		0 or 未入力	0	
17	Q	借方消費税等	数値	-9999999999 ~9999999999		0 or 未入力	0	
18	R	借方税抜き金額	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視
19	S	貸方科目コード	文字	半角数字4文字 (1111~9992)		-	-	借方科目コードが空欄の場合は必須
20	T	貸方科目名	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視
21	U	貸方補助コード	文字	半角2文字		未入力	空文字	貸方科目を口座別管理している場合は必須
22	V	貸方口座名	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視
23	W	貸方部門コード	文字	半角数字3文字 (000~998)		未入力	空文字	部門管理機能を利用しており、貸方科目コードが経常損益までの損益科目の場合は必須。それ以外の時は無視
24	X	貸方部門名	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視
25	Y	貸方課税区分	文字	半角2文字以内		未入力	空文字	申告書を自動作成する場合は必須
26	Z	貸方事業区分	文字	半角1文字 (1~6)		未入力	空文字	消費税情報で「事業区分を入力する」（簡易課税）場合でかつ当該仕訳の課税区分が[1]、[11]の場合は必須
27	AA	貸方消費税額 自動計算か否か	数値	0or1		未入力	0	「0」：消費税率の横にAが付きません。 「1」：消費税率の横にAが付きます。
28	AB	貸方軽減税率か 否か	数値	0or1		未入力	0	軽減税率の場合は「1」、軽減税率以外の場合は「0」をセットします。 省略された場合は、軽減税率以外とみなして読み込みます。
29	AC	貸方税率	数値	0~99		未入力	空文字	申告書を自動作成するかつ借方が課税取引の場合は必須
30	AD	貸方控除割合	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視
31	AE	貸方取引金額	数値	-9999999999 ~9999999999	必須	0 or 未入力	0	
32	AF	貸方消費税等	数値	-9999999999 ~9999999999		0 or 未入力	0	
33	AG	貸方税抜き金額	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても無視
34	AH	取引先コード	文字	半角数字6文字 (000001~999999)		未入力	空文字	取引先別管理の科目を貸借どちらか一方にセットした場合は必須
35	AI	取引先名	文字	全角16文字以内 (全半角混在可)		未入力	空文字	取引先コードが未入力（随時入力）の場合に反映 それ以外は入っていても無視 全角16文字分を超えている場合はエラー
36	AJ	取引先の事業者 登録番号	文字	T+数値13桁		未入力	空文字	当項目が空欄でかつ取引先コードがセットされている場合、F Xクラウドの取引先に登録されている事業者登録番号が自動でセットされます。
37	AK	元帳摘要	文字	全角40文字以内 (全半角混在可)		未入力	空文字	全角40文字分を超えている場合はエラー
38	AL	実際の仕入れ年月日表示区分	数値	1~4,9		0 or 未入力	9	「1」：年月日 「2」：年月日~年月日

								「3」：年月分 「4」：年月～年月分 「9」：省略
39	AM	実際の仕入れ 開始年月日	日付	西暦年月日 (8 桁)		未入力	空文字	YYYY/MM/DD の形式でセットしま す。年月分、年月～年月分の場合は YYYY/MM/01
40	AN	実際の仕入れ 終了年月日	日付	西暦年月日 (8 桁)		未入力	空文字	YYYY/MM/DD の形式でセットしま す。年月分、年月～年月分の場合は YYYY/MM/01
41	AO	収支区分コード	文字	半角数字 2 文字 (01～07)		未入力	空文字	以下の条件に合致する場合は必須 ・「利用機能範囲」で資金管理を 利用している ・貸借に資金定義科目がある
42	AP	収支区分名	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても 無視
43	AQ	内訳区分コード	文字	半角数字 2 文字 (01～99)		未入力	空文字	以下の条件に合致する場合は必須 ・「利用機能範囲」で資金管理を 利用している ・貸借に資金定義科目がある
44	AR	内訳区分名	-	-	-	-	-	参考表示列。値がセットされていても 無視

(注 1) 「列」とは Excel で開いた時の列です。

Ⅳ インポートする「仕訳データ」各項目の詳細

(※)「未入力」とは、空文字(「 ” ” 」)を指します。

1. 「仕訳データ」

(1) 月日

型 : 日付

仕訳の年月日を西暦 (YYYY/MM/DD) でセットしてください。

(2) 伝票番号

型 : 数値

有効値 : 0～99999

月日、伝票番号が前行と同一の場合は1つの複合仕訳として読み込みます。このため、必ず仕訳の伝票番号をセットしてください。

ただし、F Xクラウドシリーズの伝票番号の付番が「システムで自動付番する (変更不可)」または「ユーザごとに自動付番 (変更不可)」となっている場合は0から99999までの、どの数値がセットされていてもF Xクラウドシリーズで更新する際に付番し直します。なお、伝票番号の付番の設定は「利用機能範囲」メニューで行います。

(3) 証憑番号

型 : 文字

桁 数 : 半角 6 文字以内

仕訳の証憑番号をセットしてください。省略する場合は未入力としてください。

複合仕訳の場合は1行目の証憑番号が更新されます。2行目以降の証憑番号は無視されます。

(4) 借方科目コード

型 : 文字

有効値 : 半角数字 4 文字 (1111～9992)

借方の科目コードをセットしてください。

(5) 借方科目名

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(6) 借方補助コード

型 : 文字

桁 数 : 半角 2 文字以内

借方科目を口座別管理している場合、借方科目の補助コードをセットしてください。

上記以外の科目の場合は未入力としてください。

例：補助コード「A」をセットする場合は「A」

補助コード「01」をセットする場合は「01」

(7) 借方口座名

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(8) 借方部門コード

型 : 文字

有効値 : 半角数字 3 文字 (000～998)

部門管理機能を利用しており、借方科目コードが経常損益までの損益科目の場合、該当部門

コードをセットしてください。部門管理機能を利用していない場合は、未入力としてください

例：部門コード「000」をセットする場合は「000」

部門コード「021」をセットする場合は「021」

(9) 借方部門名

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(10) 借方課税区分

型：文字

桁数：半角数字2文字以内

T K C財務会計システムで定める課税区分をセットします。課税区分は、その取引が消費税法上どのような取引であるかを明らかにする区分であり、以下の「消費税の課税区分一覧」の中のいずれかの区分をセットする必要があります。

消費税情報で「申告書を自動作成しない」としている場合は、未入力としてください。

例：課税区分[1]をセットする場合は「1」。

課税区分[11]をセットする場合は「11」。

	課税区分	内 容
売 上 げ	1	課税売上げ
	11	課税売上げに係る対価の返還
	12	課税売上げに係る貸倒れ
	2	輸出売上げ（課税品の輸出等）
	21	同輸出に係る対価の返還
	25	輸出売上げ（非課税品等の輸出等）
	26	同輸出に係る対価の返還
	3	非課税売上げ
	31	非課税売上げに係る対価の返還
	4	有価証券等の譲渡
仕 入 れ	5	課税売上げにのみ要する課税仕入れ
	51	同課税仕入れに係る対価の返還
	52	免税事業者等からの課税仕入れ（課税売上げ）
	53	同課税仕入れ（免税事業者等）に係る対価の返還
	55	輸出課税仕入れ（課税売上げにのみ要するもの）
	6	非課税売上げにのみ要する課税仕入れ
	61	同課税仕入れに係る対価の返還
	62	免税事業者等からの課税仕入れ（非課税売上げ）
	63	同課税仕入れ（免税事業者等）に係る対価の返還
	65	輸出課税仕入れ（非課税売上げにのみ要するもの）
	7	課税・非課税売上げに共通する課税仕入れ
	71	同課税仕入れに係る対価の返還
	72	免税事業者等からの課税仕入れ（売上げ共通）
	73	同課税仕入れ（免税事業者等）に係る対価の返還
	75	輸出課税仕入れ（課税・非課税売上げに共通するもの）
	8	非課税仕入れ・同対価の返還
	9	課税区分が未確定の取引等
	0	不課税取引（税外取引）
特定仕 入れ	57	特定課税仕入れ（課税売上げにのみ要するもの）
	58	同特定課税仕入れに係る対価の返還
	67	特定課税仕入れ（非課税売上げにのみ要するもの）
	68	同特定課税仕入れに係る対価の返還
	77	特定課税仕入れ（課税・非課税売上げに共通するもの）
	78	同特定課税仕入れに係る対価の返還

(11) 事業区分

型 : 数値

有効値 : 1～6

事業区分をセットしてください。

課税区分が[1]、[11]以外、または消費税情報で事業区分を入力しない設定にしている場合は、未入力としてください。

(12) 借方消費税額自動計算か否か

型 : 数値

有効値 : 0、1

1をセットすると会計伝票上の消費税欄に自動計算を表すA(オート)が表示されます。消費税額をシステムで自動計算した場合は1を、自動計算でない場合は0をセットしてください。消費税の発生しない取引、または税抜き経理以外の場合は0をセットしてください。

但し、1をセットしていても、FXクラウドシリーズが自動計算した場合の消費税額と不一致の場合は、「A」を消去します。

※当項目に1をセットしても、消費税額は自動計算されませんのでご注意ください。

(13) 借方軽減税率か否か

型 : 数値

有効値 : 0、1

軽減税率の場合は「1」、軽減税率以外の場合は「0」をセットします。

未入力の場合は、軽減税率ではないとみなして読込みます。

(14) 借方税率

型 : 数値

有効値 : 0～99

税外取引の場合は0をセットしてください。

例：8%の場合は8、10%の場合は10をセットしてください。

(15) 借方控除割合

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(16) 借方取引金額

型 : 通貨

有効値 : -999999999999～999999999999

取引金額をセットしてください。

(17) 借方消費税等

型 : 通貨

有効値 : -999999999999～999999999999

取引金額をセットしてください。

課税区分が「1、11、12、5、51、52、53、55、6、61、62、63、65、7、71、72、73、75」に該当する取引の場合は、税込みの取引金額に含まれる消費税額をセットしてください

(データ連携の際にFXクラウドシリーズ側で消費税の自動計算はいたしません。)

①「1、11」の場合、消費税額は次の計算式で求め「借方消費税額自動計算か否か」は自動計算を示す「1」とします。

消費税金額＝税込み取引金額×消費税率(%)÷(100+消費税率(%))

※消費税情報の「売上に係る端数処理」の設定に合わせて端数処理を行ってください。小数点以下の数値はセットしないでください。

- ②「12、5、51、6、61、7、71」の場合は、消費税額は次の計算式で求め「借方消費税額自動計算か否か」は自動計算を示す「1」とします。

消費税金額＝税込み取引金額×消費税率(%)÷(100+消費税率(%))

※計算は小数点第一位を四捨五入します。小数点以下の数値はセットしないでください。

- ③「52、53、62、63、72、73」の場合、消費税額は次の計算式で求め「借方消費税額自動計算か否か」は自動計算を示す「1」とします。

消費税金額＝税込み取引金額×消費税率(%)÷(100+消費税率(%))×控除割合(%)

※計算は小数点第一位を四捨五入します。小数点以下の数値はセットしないでください。

消費税法施行規則第22条の適用を受ける場合には、実際の取引によって生じた消費税金額をデータとして作成し、その際の「借方消費税額自動計算か否か」は「0」とします。

「55、65、75」に該当する取引の場合は、必ず実際に生じた消費税額をデータとして作成しなければなりません。消費税の発生しない取引、または税抜き経理以外の場合は0をセットしてください。

(18) 借方税抜き金額

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(19) 貸方科目コード

型 : 文字

有効値 : 半角数字4文字(1111～9992)

貸方の科目コードをセットしてください。

(20) 貸方科目名

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(21) 貸方補助コード

型 : 文字

桁数 : 半角2文字以内

貸方科目を口座別管理している場合、貸方科目の補助コードをセットしてください。

上記以外の科目の場合は未入力としてください。

例：補助コード「A」をセットする場合は「A」

補助コード「01」をセットする場合は「01」

(22) 貸方口座名

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(23) 貸方部門コード

型 : 文字

有効値 : 半角数値3文字(000～998)

部門管理機能を利用しており、貸方科目コードが経常損益までの損益科目の場合、該当部門コードをセットしてください。部門管理機能を利用していない場合は、未入力としてください

例：部門コード「000」をセットする場合は「000」

部門コード「021」をセットする場合は「021」

(24) 貸方部門名

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(25) 貸方課税区分

型 : 半角文字

桁数 : 2文字以内

T K C財務会計システムで定める課税区分をセットします。課税区分は、その取引が消費税法上どのような取引であるかを明らかにする区分であり、「(10) 借方課税区分」の「消費税の課税区分一覧」の中のいずれかの区分をセットする必要があります。

消費税情報で「申告書を自動作成しない」としている場合は、未入力としてください。

例：課税区分[1]をセットする場合は「1」。

課税区分[11]をセットする場合は「11」。

(26) 貸方事業区分

型 : 数値

有効値 : 1～6

事業区分をセットしてください。

課税区分が 1, 11 以外、または消費税情報で事業区分を入力しない設定にしている場合は、未入力としてください。

(27) 貸方消費税額自動計算か否か

型 : 数値

有効値 : 0、1

1 をセットすると会計伝票上の消費税欄に自動計算を表す A (オート) が表示されます。消費税額をシステムで自動計算した場合は 1 を、自動計算でない場合は 0 をセットしてください。消費税の発生しない取引、または税抜き経理以外の場合は 0 をセットしてください。

但し、1 をセットしていても、F Xクラウドシリーズが自動計算した場合の消費税額と不一致の場合は、「A」を消去します。

※当項目に 1 をセットしても、消費税額は自動計算されませんのでご注意ください。

(28) 貸方軽減税率か否か

型 : 数値

有効値 : 0、1

軽減税率の場合は「1」、軽減税率以外の場合は「0」をセットします。

未入力の場合は、軽減税率ではないとみなして読込みます。

(29) 貸方税率

型 : 数値

有効値 : 0～99

税外取引の場合は 0 をセットしてください。

例：8%の場合は 8、10%の場合は 10 をセットしてください。

(30) 貸方控除割合

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(31) 貸方取引金額

取引金額をセットしてください。

型：文字

桁 数：全角 16 文字以内（全半角文字混在可）

F Xクラウドシリーズに登録されている取引先コードがセットされている場合、この取引先名は読み込み時にF Xクラウドシリーズに登録されている取引先名に置き換えます。

「(34) 取引先コード」が未入力の場合は、当項目が登録されます。

(36) 取引先の事業者登録番号

型：文字

桁 数：T+半角数字 13 桁

F Xクラウドシリーズに登録されている取引先コードがセットされている場合、読み込み時にF Xクラウドシリーズに登録されている適格請求書発行事業者の登録番号に置き換えます。取引先に適格請求書発行事業者の登録番号が未登録の場合は当該事業者登録番号を取引先に自動登録します。

(37) 元帳摘要

型：文字

桁 数：全角 40 文字以内（全半角文字混在可）

仕訳の元帳摘要をセットしてください。省略する場合は未入力としてください。

(38) 実際の仕入れ日入力パターン

型：数値

有効値：1～4、9

仕入れ年月日のパターンをセットしてください。仕入れ以外の取引の場合は未入力としてください。

[実際の仕入れ年月日のパターン]

1=YYYY 年 MM 月 DD 日

2=YYYY 年 MM 月 DD 日～YYYY 年 MM 月 DD 日

3=YYYY 年 MM 月分

4=YYYY 年 MM 月分～YYYY 年 MM 月分

9=省略

参考：実際の仕入れ年月日

課税区分が「5、51、52、53、55、6、61、62、63、65、7、71、72、73、75、8、57、58、67、68、77、78」に該当する取引（課税仕入れに関わる取引）の場合、消費税の仕入れ税額控除を受けるために、その課税仕入れが実際に行われた日を記帳する必要があります。そのための項目として実際の仕入れ日の項目を用意しています。実際の仕入れ年月日の表示方式は以下の通りです。

入力パターン	開始日	終了日	F Xクラウドシリーズ上の表現
1	YYYYMMDD	0	Z9年Z9月Z9日
2	YYYYMMDD	YYYYMMDD	Z9年Z9月Z9日～Z9年Z9月Z9日
3	YYYYMM00	0	Z9年Z9月分
4	YYYYMM00	YYYYMM00	Z9年Z9月～Z9年Z9月分
9	0	0	表示なし（未入力）

※実際の仕入れ年月日は、取引日の属する同一会計期間内の日付でなければなりません。

(39) 実際の仕入れ開始年月日

型 : 日付

実際の仕入れ年月日のパターンを 1～4 とした場合に、仕入れ開始年月日または仕入れ開始年月を西暦でセットしてください。開始年月の場合は、日付部分には「01」をセットしてください。

仕入れ日パターンが 9 の場合は未入力としてください。

(40) 実際の仕入れ終了年月日

型 : 日付

説明 : 仕入れ年月日のパターンを 2, 4 とした場合に、仕入れ終了年月日または仕入れ終了年月を西暦でセットしてください。終了年月の場合は、日付部分には「01」をセットしてください。仕入れ日パターンが 0, 1, 3 の場合は未入力としてください。

例 : ①仕入れ日を表示しない、また仕入れ取引以外の場合

実際の仕入れ日パターン=9 or 未入力

実際の仕入れ開始年月日=未入力

実際の仕入れ終了年月日=未入力

②仕入れ日を「2023 年 10 月 1 日」とする場合

実際の仕入れ日パターン=1

実際の仕入れ開始年月日=2023/10/01

実際の仕入れ終了年月日=未入力

③仕入れ日を「2023 年 10 月 1 日～2023 年 10 月 25 日」とする場合

実際の仕入れ日パターン=2

実際の仕入れ開始年月日=2023/10/01

実際の仕入れ終了年月日=2023/10/25

④仕入れ日を「2020 年 4 月分」とする場合

実際の仕入れ日パターン=3

実際の仕入れ開始年月日=2020/04/01

実際の仕入れ終了年月日=未入力

⑤仕入れ日を「2023 年 10 月～2023 年 12 月分」とする場合

実際の仕入れ日パターン=4

実際の仕入れ開始年月日=2023/10/01

実際の仕入れ終了年月日=2023/12/01

(41) 収支区分

型 : 文字

有効値 : 半角数字 2 文字 (01～07)

収支区分をセットしてください。資金外取引または資金管理をしない場合は未入力としてください。

複合仕訳の場合、明細ごとに異なる収支区分がセットされている場合はエラーとなります。

(42) 収支区分名

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

(43) 内訳区分

型 : 文字

有効値 : 半角数字 2 文字 (0～99)

内訳区分をセットしてください。資金外取引または資金管理をしない場合は未入力としてください。

複合仕訳の場合、明細ごとに異なる内訳区分がセットされている場合はエラーとなります。

(4 4) 内訳区分名

参考表示用の列です。値がセットされていても無視します。

V エラーメッセージ

表示されるエラーメッセージと条件は以下のとおりです。

メッセージ	条件
正しいファイル形式ではありません	必須の項目（6 ページ参照）が省略されている
取引年月日の値が誤っています	「取引年月日」欄に西暦年月日(8 桁)でない形式で取引年月日が入力されている
将来の日付は入力できません	「取引年月日」欄に実際の日付を超えた日付が入力されている
指定できる日は、YYYY 年 MM 月 DD 日までです	「取引年月日」欄に入力可能月（当月から 4 か月間）の範囲外の日付が入力されている (例) 4 月まで月次更新済みの場合、8 月までの取引年月日の仕訳が読込み可
この月の入力はできません。直近の月次更新完了月以降の入力が可能です	「取引年月日」欄に当月の前々月以前の日付が入力されている (例) 4 月まで月次更新済みの場合、2 月の仕訳は読込み不可
直近の月次更新完了月の仕訳入力は禁止されています	「利用機能範囲」の「仕訳の入力設定」で「直近の月次更新完了月の仕訳入力」が禁止すると設定されているにもかかわらず、「取引年月日」欄に「直近の月次更新完了月」の日付が入力されている
会計事務所が監査中のため、この月の仕訳の訂正加除はできません。詳しくは会計事務所にお問合せください	「取引年月日」欄に月次巡回監査メニューの「関与先による監査対象月の入力を禁止」にチェックが付けられているにもかかわらず、監査対象月の日付が入力されている
伝票番号：XXXXXX は範囲外の値です	「伝票番号」欄に 0～99999 以外の値が入力されている
証憑番号：XXXXXX は範囲外の値です	「証憑番号」欄に 6 バイトを超えた値が入力されている
証憑番号には半角数字の入力のみ可能です	「証憑番号」欄に「利用機能範囲」の「仕訳の入力設定」で「証憑番号の入力」が「数字のみ入力」と設定されているにもかかわらず、文字列が入力されている
課税区分、借方科目及び貸方科目の組合せが正しくありません。課税区分又は勘定科目を見直してください	以下のいずれかの条件に合致する ・「課税区分」欄に課税区分が入力されていない ・「借方(貸方)科目コード」欄に入力されている勘定科目と「課税区分」欄に入力されている課税区分の組合せが正しくない
事業区分が入力されていないか、誤つ	「事業区分」欄に事業区分が入力されていない。また

た事業区分が入力されています	は、存在しない事業区分が入力されている
存在しない借方（貸方）科目コードです	「借方(貸方)科目コード」欄に存在しない勘定科目コードが入力されている。または、製造原価科目を「利用しない」と設定しているにもかかわらず、製造原価科目の科目コードが入力されている
補助コードが入力されていないか、誤った補助コードが入力されています	「借方(貸方)補助コード」欄に補助コードが入力されていない。または、登録されていない補助コードが入力されている
税込み金額：XXXXXXXXXXXX は範囲外の値です	「取引金額」欄に 11 桁を超えた値が入力されている
税率が入力されていないか、誤った税率が入力されています	「税率」欄に以下のいずれかの条件に合致する税率が入力されている。 ・消費税情報の税率テーブルに登録されていない税率が入力されている ・税率が必要な課税区分(*)で税率に 0 %が入力されている (*) '1', '11', '12', '5', '51', '55', '6', '61', '65', '7', '71', '75', '57', '58', '67', '68', '77', '78' ・税率と軽減対象取引区分の組み合わせで存在しない税率が入力されている。 (例) 税率「10」、軽減対象取引区分「1」
取引先名は全角 16 文字(半角 32 文字)以内で入力してください	「取引先名」欄に全角 16 文字(半角 32 文字)を超えた名称が入力されている
取引先が入力されていないか、誤った取引先が入力されています	入力された勘定科目が取引先別管理科目とされているにもかかわらず、「取引先コード」欄に、取引先コードが 0、または登録されていないコードが入力されている
実際の仕入れ年月日を入力してください	「実際の仕入れ年月日」欄に実際の仕入れ年月日が入力されていない
実際の仕入れ年月日 1（実際の仕入れ年月日 2）の値が誤っています	「実際の仕入れ年月日」欄に「実際の仕入れ日入力パターン」欄で指定した入力パターンと異なる形式で入力されている
元帳摘要は全角 40 文字(半角 80 文字)以内で入力してください	「元帳摘要」欄に全角 40 文字(半角 80 文字)を超えた摘要が入力されている
収支区分が入力されていないか、誤った収支区分が入力されています	「収支区分」欄に収支区分に 1～7 以外の値が入力されている、または入力されていない
内訳区分が入力されていないか、誤った内訳区分が入力されています	「内訳区分」欄に内訳区分が入力されていない、または登録されていない内訳区分が入力されている

部門コードが入力されていないか、誤った部門コードが入力されています。	「部門コード」欄に部門が入力されていない、または登録されていない部門コードが入力されている
貸借の合計額が一致していません	借方の取引金額合計と貸方の取引金額合計が一致していない。
課税区分[52][53][62][63][72][73]は免税事業者等からの課税仕入れを処理する課税区分のため、2023/9/30以前は入力できません。年月日、実際の仕入れ年月日又は課税区分を確認してください	課税区分[52][53][62][63][72][73]にもかかわらず、月日、または実際の仕入れ年月日に 2023/09/30 以前の日付がセットされている。
消費税が発生する取引であるにもかかわらず、取引金額が0円です	消費税が発生する課税区分にもかかわらず取引金額に0円がセットされている。
取引に対して有効な課税区分ではありません	課税区分[52][53][62][63][72][73]にもかかわらず、「借方(貸方)科目コード」に仮受消費税等、仮払消費税等がセットされている

VI 警告メッセージ

データに誤りがある場合でも、読込時にF Xクラウドシリーズで自動的にみなし処理を行う場合があります。みなし処理を行う場合のメッセージと条件は以下のとおりです。

メッセージ	条件
課税区分が不要な取引です。課税区分を消去して読込みます	「課税区分」欄に消費税情報で消費税申告書を自動作成しないとしているにもかかわらず、課税区分が入力されている
事業区分が不要な取引です。事業区分を消去して読込みます	「事業区分」欄に[1] , [11]以外の課税区分が入力されているにもかかわらず、事業区分が入力されている
消費税が発生しない取引であるにもかかわらず、消費税額が入力されています。消費税額を消去して読込みます	「内、消費税等」欄に課税取引でないにもかかわらず、消費税額が入力されている
税率が不要な取引です。税率を消去して読込みます。	「税率」欄に課税取引(*)でないにもかかわらず、税率が入力されている (*) 課税区分'2 ', '21', '25', '26', '3 ', '31', '4 ', '8 ', '9 ', '0 'の取引
収支区分が不要な取引です。収支区分を消去して読込みます。	「収支区分」欄に収支区分が不要な取引にもかかわらず、収支区分が入力されている
内訳区分が不要な取引です。内訳区分を消去して読込みます。	「内訳区分」欄に内訳区分が不要な取引にもかかわらず、内訳区分が入力されている

Ⅶ 「仕訳データ」読込 Q & A

1. ファイル形式

Q 1 : データ連携する際のファイル形式はどうなりますか。

A 1 : Excel ファイル (拡張子xlsx) になります。

Q 2 : CSV形式の読込はできませんか。

A 2 : Excel ファイル (拡張子xlsx) のみになります。仕訳データがCSVの場合はExcel ファイルに変換を行ってください。

Q 3 : サンプルファイルはありますか。

A 3 : 「仕訳帳(Excel)の読込」メニューの「Excel 読込のための仕訳抽出」が画面からファイルを切り出すことができます。

Q 4 : ファイル名に指定はありますか。

A 4 : ファイル名に指定はありません。

2. 「仕訳データ」の読み込み

Q 1 : 「正しいファイル形式ではありません」のメッセージが表示されました。原因は？

A 1 : 当該メッセージは、基本的なファイルの形式を満たしていない場合に表示されます。原因としては、各項目がデータレイアウト通りに作成されていないことが考えられます。「Ⅲ インポートする「仕訳データ」ファイル」「Ⅳ インポートする「仕訳データ」各項目の詳細」を参照し、作成した仕訳データファイルをご確認ください。

Q 2 : ファイルはF XクラウドシリーズがインストールされているPCに保管する必要がありますか。

A 2 : ありません。読み込み処理を行うPCから開けるファイルであれば、サーバや他のPCに保管されているファイルでも問題ありません。

Q 3 : 1度に読み込める仕訳枚数に制限はありますか。

A 3 : 1ファイルで読み込む仕訳枚数に制限はありません。ただし、次の制限があります。

1. ファイルサイズが500KBを超える場合、読み込めません。
2. 1つの複合仕訳が60行を超える場合、読み込めません。

3. 「仕訳データ」の各項目

Q 1 : 「借方消費税額自動計算か否か」列に「1」をセットするとF Xクラウドシリーズで消費税額の自動計算を行うのですか？

A 1 : 「1」をセットしても消費税額をF Xクラウドシリーズ側で自動計算するわけではありません。

Q 2 : 伝票番号をセットしても F Xクラウドシリーズに更新されません。なぜですか？

A 2 : 以下の通り、F Xクラウドシリーズでの「利用機能範囲」の「伝票入力時の伝票番号」の設定によります。

①「システムで自動付番する（変更不可）」

更新された順に伝票番号がシステム側で付番されます。データの内容は無視されます。

②「ユーザごとに自動付番する（変更不可）」

更新された順に伝票番号がシステム側で付番されます。データの内容は無視されます。

③「ユーザごとに自動付番する（変更可）」

データ上の伝票番号をそのままセットします。仕訳データファイルに情報がない場合は何もセットされません。

④「自動付番しない」

データ上の伝票番号をそのままセットします。

4. テスト

Q 1 : データを作成したので読込のテストを実施したいのですが、どのように行えばよいですか。

A 1 : 本稼働している F Xクラウドシリーズで読込を行い、正常に読込が完了しても一括読込ボタンを押さない限りは仕訳データとしてシステムに反映されません。従って、利用中の F Xクラウドシリーズでテストを実施することが可能です。

5. 運用・操作

Q 1 : 読込んだデータと手入力したデータと何か違いがありますか。

A 1 : 仕訳確認時に画面上に「他社システム仕訳」と表示されます。

Q 2 : 読込んだデータは F Xクラウドシリーズ上で確認することができますか？ また、どのように確認するのですか。

A 2 : 通常の手入力した仕訳と同じように確認することができます。また、条件検索機能を利用することで、「仕訳帳(Excel)の読込」から取り込んだ仕訳のみを抽出することも可能です。

Q 3 : 1 度に切り出せる仕訳枚数の制限はありますか。

A 3 : 1 度に切り出せる仕訳枚数は 500 仕訳までです。

500 仕訳を超える場合は詳細検索で必要な仕訳を絞り込んでから切り出してください。